2024年　9月25日
第46号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本
発行人　椀田優一
編　集　情宣担当
ホームページ
http://www.jreu-yokohama1.jp/

イーハトーブ

９月２５日号

今年は終戦から79年、来年は80年という節目を迎える。当時を語れる人も少なくなってきている。私は先日、長野県の松代に行く機会があった。

松代という地域は太平洋戦争の末期に本土決戦に備えて、「松代大本営」が造られた地である。結果、完成することなく終戦を迎えたため、大本営としての機能を果たすことはなかったが、現在でもその地は後世へ語り継ぐために、一部エリアにおいて一般開放し、実際に地下壕の中に入ることができる。

私が訪れた松代象山地下壕は昭和19年11月から終戦の昭和20年8月15日までの約9ヶ月間の突貫工事で建設され、その工事のために多くの日本人労働者に加え、朝鮮人労働者が動員されたと言われている。その工事は極秘で進められたとされ、一方で松代地下壕が完成するまで、唯一の地上戦であった沖縄戦で時間を稼ぐため、沖縄県において多くの犠牲者が出たということはなかなか知られていない事実だ。

長野と沖縄、地図で見ると非常に遠くに感じるが、知られていないところで密接に関係している。ということを今回訪れて感じた。私自身もいくつかの国内の戦争に関する戦跡を自分の目で見る機会はあったが、その都度感じるのは「戦争の愚かさと、誰が何のために地球上のどこかで常に戦争を起こしているのか」ということである。

今、憲法改正が声高に叫ばれているが、戦争のできる社会を作り出すために、自分たちの身の回りで着々と環境整備が進められていることに目を向けなければならない。

また、今まで見て見ぬふりをしていた「加害の日本」という消すことのできない事実を、どう後世に伝えていくか。そして、平和憲法9条を堅持していくこと。それが今生きている私たち一人ひとりに課せられたことではないかと思う。

（J・K）

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。